

目的 毛髪美容には、外的要因として、毛髪清潔と手入れが必要であり、そのために種々の毛髪化粧品や道具が用いられている。

演者らは、特に毛髪化粧品の毛髪に及ぼす影響とその効果について、系統的な研究を試み、先ず毛髪のリンス処理による影響を、物理的、形態学的な変化から検討を行った。

方法 市販のリンスA~Fの主成分を調べた結果、塩化ジアルキルジメチルアンモニウムが多いので、このタイプのクリームリンスを用いて、リンス濃度、処理温度及び時間を変えてリンス処理した20~24歳の女性5名の毛髪を、それぞれ光学及び走査型電子顕微鏡で観察を行ない、同時にテンシロンを用いて毛髪の伸度と強度を測定した。

結果 未処理の毛髪(太さ: 0.075 ~ 0.085 mm)の伸度及び強度はそれぞれ、50~60%及び140~160 grであるが、リンス濃度、処理温度及び時間を変えた毛髪の伸度強度は、対照とした水浸漬及び未処理の毛髪の場合とほとんど差がなく、又顕微鏡による観察の結果においても何ら変化を認めなかった。

従って、クリームリンスの使用による毛髪に対する影響はなく、毛髪の保護及び美容のためにクリームリンスは必要であろう。